

人が集まり交流する都市公園へ ～地域をつなぐホタル復活プロジェクト～

大道沢公園ホタルプロジェクト 千葉県 君津市



1 社会資本の概要

大道沢公園は、緑道(A・B・Cの3ゾーン)、北公園、南公園の5ゾーンから構成された親水公園で、地下400mから自噴する2本の深井戸(防災井戸)を水源とする小川が流れています。昭和40~50年代に鉄鋼業の発展に伴い、全国から移住した人々により急激に市街地が形成された地域の中心に位置し、交流と融和・災害に強い街など他の公園にはないコンセプトをもって造成されました。

昭和40年頃までの「大道沢」はホタルが飛び交い、ウナギが遡上する豊かな小川でした。土地区画整理に伴い、そうした環境が失われましたが、昭和61年からおよそ10年をかけて「大道沢公園」が整備され、公園内には、以前にあった「大道沢」をイメージした全長約1.2kmの小川が再現されました。しかし、再現された小川でホタルが自然に飛翔することはありませんでした。



土地区画整理工事終了間際(昭和55年)
黄色囲いが大道沢



土地区画整理工事中の大道沢



大道沢公園内を流れる小川(現在)

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

平成28年春、公民館で活動する仲間が集い、「またホタルの舞う姿が見たい」という想いをきっかけに活動をスタート。専門家や市内の他団体にも協力を仰ぎ、公園の成り立ちと構造、ホタル生息の可能性を知る環境調査を1年かけて行いました。結果、課題はあるが、可能性はゼロではないという結論に至り、平成29年度からホタル復活に向けて本格的に活動をはじめました。

当時の小川は、全面シート張りの上にモルタルが

塗られ、護岸は、石材かコンクリート、土手は、固い裸地でホタルの生息条件には程遠い状況でしたが、育成区域を定め、「花木の植栽」「小川に蛇籠を敷設」「土手の土壌改良」「公園全域のごみ回収」をするなど、公園利用者に配慮しつつ、ホタルが生息可能とする環境整備を行いました。ホタルの幼虫の確保・育成にあたっては、親ホタルを近隣の保護団体の協力で同エリアで確保するなど常に生物多様性の保全に留意して活動しています。



大道沢公園についての学習会



専門家との現地調査



土手の土壌改良

3 活動の成果や波及効果等

移住者が多い当地域において、ホタルが舞う大道沢公園が新旧住民の融和を象徴する空間となっています。

小学校からの提案で、総合的な学習の時間として、児童が継続的に地域や環境学習を行う「児童とプロジェクトメンバーの協働活動」に位置づけ、令和元年度から取組を進めています。

子どもたちは、初めて見るホタルに感動し、地域や自然に興味を持ち、小さな体験をこころにとどめています。移住者は故郷で見たホタルとその情景を、地域出身者は昔見た風景(土地区画整理前)を思い出し、感動しています。

ホタル観賞に来る方は、家族連れ(親子、三世代)や車いすの人もおり、世代間交流が進んでいます。近隣住宅の理解と鑑賞者のマナーにより、苦情や駐車違反などのトラブルもなく、地域の交流が深まっています。



大道沢公園に
ホタルが飛んだ



生きもの調査



大切な情報発信ツール

所在地	千葉県君津市空師
活動主体及び連絡先	大道沢公園ホタルプロジェクト mail:a5-taka@jcom.home.ne.jp
対象となる社会資本	大道沢公園・大道沢北公園

喜びの声



受賞者

大道沢公園
ホタルプロジェクト
会長
新井 孝男
(左から3人目)

コメント

幼虫放流のホタル飛翔はまだ通過点です。公園で羽化した成虫が卵、幼虫、蛹、成虫となる循環(生活史)ができて真のホタル復活。そのための環境改善をさらに進めて行きます。ホタルをきっかけに、より多くの人たちが公園を、そして地域を好きになり、より良い地域づくりの輪が広がることを願います。次世代につなぐ仲間を増やし、ホタルが舞い続ける努力を続けます。手づくり郷土賞から、その力をいただきました。ありがとうございました。

活動の内容

- ホタルの生息可能性の環境調査
- 自宅及び小学校でのホタル幼虫の育成
- 花木の植栽や小川への蛇籠の敷設、土手の土壌改良などの環境整備
- 定期的公園全域のごみ回収
- 小学生との生きも調査や幼虫の放流、環境学習
- 環境省・国土交通省の全国水生生物調査
- 公園内の会員手作り掲示板へ活動掲示
- 地域の文化祭等でパネル展示、幼虫生態展示など

活動の経歴

- 平成28年 大道沢公園ホタルプロジェクト準備会設立・環境調査開始
- 平成29年 大道沢公園ホタルプロジェクト設立
- 令和元年 幼虫育成・ホタル羽化成功・幼虫放流開始
- 令和2年 ゲンジホタル飛翔
- 令和5年 手づくり郷土賞(一般部門)受賞

